

最初の母の「いい顔」：第1回目のセッションからの抜粋

ドロレス：[ゆっくりと、子どもっぽい声で話す] 私にはね、いい顔 the good face があるんです。そのおかげで、今まで生きのびてこられたんです。その顔が、私を見ているのがわかるんです。私とその顔を幸せにする、彼女の顔がどんな風になるか、わかるし。すごく孤立した時は、しあわせな顔にしようにも相手がいないんです。

BB：そう。

顔を幸せにすることができるとか、孤立した時は幸せな顔にしようにも相手がいないとかいう彼女の発言は、双方向的な影響モデルを例示している。そのモデルは、対面的相互交流に関する乳児研究において、かなり中核的なものである。彼女は、母親の顔の表情を生き生きとさせる、子どもの側の体験を描写している。それは、子ども自身の顔に現れた情動に共鳴する母親という、通常の描写の反転である。彼女が顔について、「彼女の」顔 her face ではなく、「その」顔 the face と、定冠詞をつけて話しているところが興味深い。

ドロレス：いい顔は、私の悪さは望まないから、だから——私って、すっかりひとりぼっち。そうなるともう、いい顔は見つけられない。そこにあるのはわかっていても、見つけられないし、そうなるともう、自分の中にいい感じは見つけられない……

ここで彼女は体験の二者関係的なオーガナイゼーションを例示している。つまり、彼女自身のいい感じは、よい顔との関連でオーガナイズされている。もしもよい顔との関係性が彼女自身の心の中で途切れてしまうと、その時は彼女自身のよさも失われてしまうことになる。

ドロレス：[養] 母と一緒に遊んだ時のことを思い出します。彼女の顔を見るけど、思い出すのは他の顔なんです。余りに生々しく思い出したので、その顔の方を実際に見ている感じでした。その顔を見た時、生きてい

感じがして、いい感じだった。私はいい人だった。それを私は、体の隅々に molecules に、その顔に、その顔の私への語りかけ方に感じたんです。私の中の可能性、私が何を望まれているかが、その顔からわかるんです。いつしあわせにして、いつ怖れて、いつはよくて、いつはよくないのか。自分についてすべてのことをその顔から知るんです。それは私に、次は何かを伝えてくれる。それがどういう時に私を愛してくれて、どういう時に愛してくれないか……私はわかるんです。

彼女の描写は、乳児研究における「読み expectancies」の概念を実にうまく捉えている。つまり、乳児は、顔の表情がいかに変わり行くかをめぐる時々刻々の継起を、読むようになるという考え方である。しかしながら、ここでの彼女の描写は、子どもの顔に及ぼす大人の顔の影響をより際立たせた形をとっている。彼女の描写はまた、視覚的断崖の実験 (Klinnert et al. 1983) を思い起こさせる。その実験は、よちよち歩きの幼児がガラスのテーブルの上ののせられ、そばには母親がいる設定になっている。ガラスのテーブルの下には「視覚的断崖」がある。テーブルの向こう側には、とてもおもしろそうなおもちゃがいくつか置いてある。そのおもちゃに向かってテーブルを横切ろうとすると、目の前に断崖が迫っていることに、はたと気づく。子どもはそこで、ふりかえって母親を見る。母親が、笑顔を見せるようにとインストラクションを受けている場合、その子どもはためらうことなく、向こうの端にあるおもちゃに向かって前進する。一方母親が、恐怖顔を示すようにとインストラクションを受けている場合、その子どもは「崖」を横切らない。こうして子どもは、何を感じ、何をすべきかを母親の顔から知り、怖いから横切らないか、怖がらずに横切るかを判断する。

「体の隅々」という彼女の言葉の使い方は、体験の直感レベル、身体レベルへと言葉を結びつける。それは Loewald (1980) の、前言語的な体験に言葉を「リンクさせる」という考え方を思い起こさせる (Mitchell 2000 参照)。Bucci (1997) もまた、直感的身体的体験と言葉に表される感情とのつながりを強調し、それを関連イメージ referential imagery の深さという彼女の概念で説明している。こうしたつながりをつけるドロレス自身のキャパシティが、治療に

おける豊かな資源となった。

ドロレス：いい顔をそんなに怒ってなんかいたくない。彼女には助けて欲しいんです。

BB：あなたを置き去りにしたことで、よいお母さんのことを怒っていて、ご自分が怒っていることを心配しているんですね？

ドロレス：ええ。でも私、起こったことをとっても恥ずかしく思っていて、それをいい顔に知られたくないんです。いい顔は、私を引き取るために戻ってこなかった。私がワルだって彼女はわかってたから。

彼女の恥に対する、そして彼女の「悪さ」が表に現れることに対する恐れは、確かめることをめぐる彼女の恐怖や、見ること同様見られることへの恐怖の一因となっていたと思われる。おそらくよい母は、彼女の顔に何か悪さを見るのであろう。

BB：あなたが、心のどこかでは、悪い赤ちゃんなんていないんだと知りながら、どうしてこんな風に考えるようになったかが伝わってきます。それって、2歳児の理論、ですね。あなたが私に伝えようとしているのは、かつてよいお母さまから受けた愛情を憶えていることが、後から虐待を受けることになったにしろ、ものすごく大事ということでしょうか。

ここで私は、里母に向けられた彼女の愛情を肯定的に受けとめた。里母に向けられたこの愛情が非常に重要であると感じたからである。またここで私は、その時期に生じた何かに対する彼女の羞恥心が、そして、置き去りにされたことをめぐる彼女の苦悶が、いかによい里母の思い出とのふれあいをかき乱しているかを知った。彼女を放り出した里母へ向けられた怒りの嵐を私たちが徹底的に探求することになったのは、ずっと後になってからである。そしてついに私は、虐待的な生みの母親が彼女に、次のように話していたことを知った。里母が彼女を置き去りにしたのは、彼女が悪い女の子だったからだ。里母は彼女の代わりに、別の、よい女の子を見つけた。里母が戻ることがなかったのはそ

れが理由である、と。

ドロレス：私を助けて何が起こったのかをいい顔に知らせ、今でも彼女は私
がいい子だと思っているかどうか、確かめてくださいますか？

BB： たぶん、あなたと私とで、何が起こったかを、いい顔に知らせることが
できますよ。あなたは、母親のいい顔を感じたいと、待ちわびている。
彼女なしで、自分はよいと自分で感じるのは、とても難しいんですね。

ドロレス：その、もし赤ちゃんたちは悪くないということを先生が知って
いらっしゃるなら、ひょっとして、先生と私で、こんな風に言えます
か？ 母親のいい顔と赤ちゃんのいい顔は、今でもずっとあるかもしれ
ない、って。このセッションを終わりにしたくない。先生に、二つの顔
を一緒に抱えてもらいたいです。

BB： あなたは、いい母親の顔と、いい赤ちゃんの顔を一緒に抱えようと苦
闘しているんですね、虐待は受けただけで。

ドロレス：もし、いい母親が悪さを知っていても、それでも赤ちゃんはいい
ままですか？

BB： ええ。

私は、子どもはよいのだと、強く応答する。それが治療を枠づける。何が
起こったかをいい顔に知らせる手助けをしてもらえないかと私に尋ねることで、
彼女は自分が必要なものをストレートに出している。この部分で私は、
Winnicottの言う移行的プレイ・スペースに留まれる彼女のキャパシティに参
入している。「たぶん、あなたと私とで、何が起こったかを、いい顔に知らせ
ることができますよ」と。一緒になって私たちは、遊び、即興に戯れ、時には
ユーモアを交えるキャパシティを創りだしたのである。この、プレイ・ス
ペースに留まり、しかも私を直接その中に招き入れるという彼女のキャパシ
ティは、治療におけるもう一つの豊かな資源であった。

二つの顔を一緒に抱えて欲しいという彼女の切迫した願い、つまり、彼女自
身の顔とよい母親の顔、その二つの顔を一緒に抱えることができなければ、彼
女は成長を続けることができませんという切なる訴えは、3人の乳児理論家

が提唱している「心の対話的起源」に関連づけて考えられる。彼女に必要なのは、早期の「顔の表情による対話」を保ち続けられることである。Meltzoff, Trevarthen, そして Stern が、雄弁に論議を展開してきたように、言語以前にも、豊かな顔の表情（あるいは発声や接触）による対話というものがあり、それには、ドロレスもよく知っていたように、微妙なニュアンスや複雑さが込められている。対面的相互交流の研究をバックグラウンドとする私は、顔の表情による対話（や注視、顔と体の向け方、声）を、（顔の表情の模倣や操作であるというより、むしろ）情緒を表出し、それに応答するための複雑なアリーナであると考えようになった。ここに記した交流の断片は、母親の違いで期待できるもの（読み）も劇的に違っていた育児期の体験を何とか統合しようとして、いかにドロレスがその探索の手助けに私を巻き込んだかという、この治療の主題の一つを描き出している。

養母の顔に見つけてもらえないこと：治療の最初の週からの抜粋

ドロレス：[養]母の顔を探し求めている、いろんな顔が出会い、マッチして、安堵の時もないままで。これです、私が失ったものは。かつて一度はもっていたんだって、わかっているんですけど。目覚めさせてください、私を。死んだみたいになりたくない。[ポーズ] [養]母の方をちゃんと見なかった。なぜかはわかりません。でも、私の顔がこれじゃだめだというのはわかった。私は、彼女を見ることができなかつたし、見つけてもらえなかつた。[ポーズ]かつて一度はそれをもっていたんです、長い間ではなかつたけれど、でも、もっていたってことはわかってるんです。それが、先生とここにこうしている事と結びついて。

BB： それを、あなたは探し求めて来たのですね。

ドロレス：先生には、それを見つけ出すお手伝いをしていただける。ここには安心できる場がある。活気に満ちてきて、わかってもらえているって感じがして、顔を背けたりしない誰かで。もし、それを手に入れられないなら生きていられない。[ポーズ] [養]母は私にストップをかけざる